

内水試

かわら版

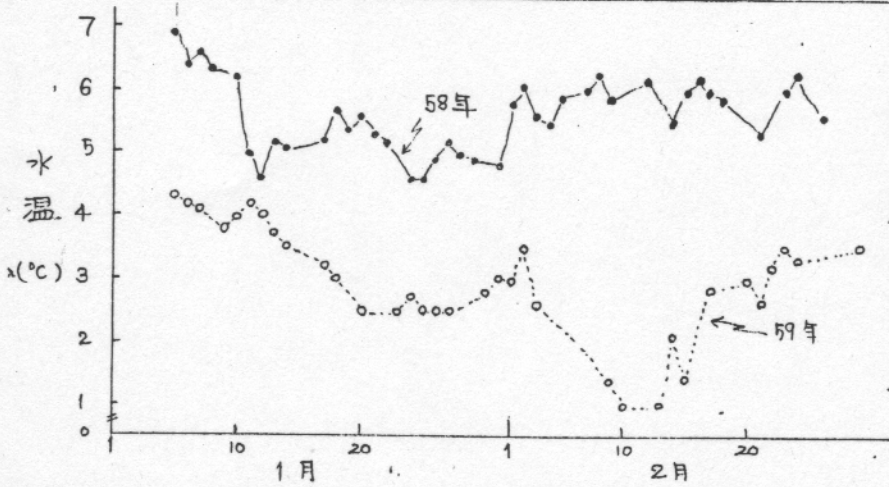
53号

今年の冬の水質

一月の水戸の平均気温は、過去30年間では、一位の低温記録であったと、水戸気象台は報告してあります。

霞ヶ浦でも、高寒入りのかなりの水域で結氷し、二〇年この方みられなかった現象がおこっています。気温が低いことから、湖の水温も異常に低く推移してきます。

下図は、内水試験橋で毎朝測定している、表層の水温変化を示したものです。昨年の一、二月の気温は、平年並であったことを考えると、今年の



水温は、極めて低いことが判ります。一般に水温が低い時は、透明度が高くなる傾向がみられますが、三月七日の湖心の透明度は、二七〇cmと高くなっており、湖水は澄んでみえます。

網が汚れる

冬の透明度と、夏のアオコ増殖量との間には、直接関係はみられませんので、冬の透明度が高いうら、夏のアオコが少なければとうと考える訳にはいかないので、この冬の低温が、今後の霞ヶ浦にどのような影響を与えるのか、大きな検討課題となっています。



「細い汚れがひどい」と思っている方が多いことであろう。この汚れは、図のような珪藻が、無数に細小のフチビルケイトウ、クサビケイトウに付着し、それに水中のゴミがついて出来たものです。珪藻は秋から春にかけて増殖し、特にこの期間の水温が低い程、多く

イサザがい

なる傾向がみられます。また、珪藻は河口に近い所程増殖しますので、細い汚れもそれと同じ傾向を示していると思えます。

人事異動(四月一日付)

- ◎ 猿谷場長が退職され、公害技術センターから「市村」が着任。
 - ◎ 赤野環境部長が水産施設課へ転任し、環境部「佐々木」が後任に。
 - ◎ 里美養魚場から「大川」が環境部へ、水産施設課の「野内」が里美養魚場へ着任。
- 今後ともよろしく願います。

茨内水試図